

教育と文化

みんなで
考えよう
人権・同和問題
No. 240

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

星の王子さまが教えてくれたこと

世界中で最も読まれている絵本『星の王子さま』のなかから、心が元気になるエピソードを紹介します。

ある日王子さまは、きつねから秘密を教えてもらいます。「本当に大切なものは見えないんだよ」。さて、大切なものとは何でしょうか。

見えないのですが、空気みたいなのに、いつも私たちの身の周りにあって、奪われたら生きていけない、当たり前の大切なもの。『人権』に似ているような気がしませんか。

空気が汚れたり薄くなったりすると息苦しくなります。それと同じで「自分らしく生きづらい」と感じるときは、人権が侵害されているときなのかもしれません。

『子どもの目線』で社会を見ると、それまで気づけなかった矛盾が見えてきます。例えば『あいさつ』です。私たち大人は子どもに、「知らない

人にも進んであいさつをしましょう」と言いながら、一方では「危ないから知らない人には近づいてはいけません」と、矛盾したことを言います。それでいて「最近の子どもはあいさつをしない」などと言うことがあります。子どもにとってみれば、混乱しているだけなのかもしれません。

『ならわし』や『しきたり』にも、たくさんの矛盾が潜んでいます。『女人禁制』を子どもにも説明できますか。『同和問題』も同じです。出身地を理由に人の値打ちに差をつけるなんて、子どもにも説明できません。

子どもの目線で矛盾に気づき、自分の言葉で考える。そのうえで「子どもにも説明できないことは見直していこう」という姿勢をとることが、『人権のまちづくり』につながるような気がします。星の王子さまが教えてくれました。

郷土の文化財

伊万里の城館跡シリーズ⑨

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎ 3186

山口城跡

山口城は別名『莊山城』とも呼ばれ、八幡岳から西に延びた丘陵先端の『城ノ辻』に立地する大川町山口字米川に所在する山城跡です。

末期に最終整備された可能性があります。

山口城は日在城の出城と伝えられていて、後世の文献によれば、鶴田弘が居住し、『山口善助』と称していたと記されています。

山城としての機能が非常に分かりやすい城跡ですが、現在は城跡へ続く道は無いため、見学はお勧めできません。

城跡は山頂部に主郭を配置し、東から南側にかけて帯状の曲輪を、北側には段状の腰曲輪を配しています。帯曲輪の下方には空堀とその延長の豎堀が、防御設備として機能していたと考えられます。一方で、空堀に接する土塁とそれにつながる土橋は城兵の移動を考慮した構造となっています。ただし、豎堀によって主郭の南西斜面への移動は遮断していたようです。土塁や空堀、豎堀を効果的に配した空間構成をしており、かつ、自然石を用いた石積み



↑山口城跡の現存する石積み